

第7回 鎌倉市観光基本計画策定委員会 会議録

日時；平成18年10月26日(木) 14時から16時30分まで

会場；鎌倉市役所 第2委員会室

出席委員；古谷委員長（以下、あいうえお順）

大嶋委員、大津委員、城戸委員、小西委員、中根委員、浜田委員、
藤川委員、古谷委員

出席職員；進藤部長、相澤次長、宮田課長、中野課長補佐、鈴木主事

傍聴者；3名

会議の概要；

第2期観光基本計画に対するパブリックコメントの結果を報告し、修正案について意見をいただいたところ、大きな構成については了解が得られ、細かな内容の部分についてさらに検討を行なった。

議事の概要；

1. 開会のあいさつ

2. 庶務事項

事務局；

本日、菅原副委員長と國生委員が欠席となります。それでは始めたいと思います。よろしくお願ひいたします。

委員長；

皆さんこんにちは。第7回の委員会を始めさせていただきます。次第に沿って進めますが、庶務事項について事務局から説明をお願いします。

事務局；

こんにちは、よろしくお願ひします。まず会議の公開の状況は、広報かまくら10月15日号で傍聴者の募集をかけ、本日3名の方が傍聴にいらしています。傍聴者の方へのお願いとして、会議中の写真撮影・録音についてはご遠慮ください。お手元の資料は各委員に配布したものと同一もので、お持ち帰りいただいて結構です。ご協力をお願いします。

第6回の会議録は確認させていただき修正しましたので、これで確定いたします。

委員長；

前回の会議録についてはこれで確定ということをお願いします。何かあれば事務局の方に連絡いただければと思います。傍聴者の方には、円滑な議事の運営にご協力をお願いします。

3. 審議事項

(1) パブリックコメントの結果について

委員長：

それでは審議事項に入ります。

前回の委員会を受けてパブリックコメントを実施しており、その結果を報告いただくことと、前回の議論した件について、計画案を修正した部分があるので、まずパブコメの結果について事務局からお願いします。

事務局：

まず資料の確認をさせていただきます。事前に郵送させていただいたものとして、本日の会議次第、資料1「第2期観光基本計画(案)」、資料2「パブリックコメント一覧」、資料3「パブコメ事務局対応案」、第6回の会議録です。それと本日資料4としてパブコメをした時の案を配らせていただいています。

資料2 パブリックコメント一覧をご覧ください。パブリックコメントは、9月1日から9月20日まで実施し、その周知は、「広報かまくら」やホームページへの記載、市役所及び支所の窓口に計画書案を配置するなどして、行いました。

その結果、1、2ページに整理したように、8名の方からご意見をいただきました。ご意見をいただいた方のお住まいの地域は、玉縄地域が4、鎌倉、大船地域がそれぞれ1、不明が2でした。男女別では、女性が2人、男が5人、不明がひとりでした。どちらかという、観光に直接関係のある旧鎌倉地域からではなく、大船駅周辺の大船・玉縄地域から多く意見をいただいたこととなります。いただいたご意見は、4ページ以降に、原文のまま(一部は事務局でワープロ化)掲載してありますので、のちほどご覧いただければと思います。

それぞれの意見を要約しますと、(1)の方は世界を視野に入れた計画を策定して欲しいという意見。(2)の方は、各主体の連携、推進体制の構築は大賛成。全体をコントロールする部門を示すべき。観光産業を鎌倉経済の活性化の基盤として位置づけるべきだという意見。

(3)の方は基本理念等の記述方法について、(4)の方は、計画地域が旧鎌倉地域に限られているのではないかという意見。(5)の方は、具体的に人力車への対応について意見をいただいている。(6)の方は、目標別のアクションプラン「鎌倉の歴史、伝統、精神性などの体験型プログラムの開催」の項での具体的な提案をいただいた。(7)の方は、計画書全般の記述・表現について、いくつか指摘をいただいている。(8)の方は、現状の鎌倉観光の問題点と、それに対する具体的な提案を示していただきました。

これらを見ますと、基本理念、基本方針、アクションプランの目標指標や進行管理などの骨格となる部分についての批判的ご意見はあまり見られませんでした。

3ページをご覧ください。こちらには、観光部門を所掌しています市議会の観光厚生常任委員会の7人の委員に、それぞれ内容を説明した際に、いただいたご意見等をまとめたものです。内容的には、鎌倉のコンセプトを作るべきである、市民との共存、観光客数より満足度を高める視点が必要などのご意見をいただきました。

続いて資料3のパブコメ・事務局対応案をご覧ください。こちらの資料は、いただいたご意見を計画書案の構成・項目に合わせて整理し、それぞれについて、事務局の対応案を示したものです。それぞれのご意見について、すべて説明しますと時間もなくなってしまいますので、ご意見を受けて、事務局で具体的に本編を修正したものについて、説明をさせていただきます。なお、事務局の修正案については、庁内の検討会でも確認しております。

資料1の観光基本計画案と本日あらためて配布しました資料4パブコメ時の計画案を見比

べる形でご覧いただき、資料1の計画案を「修正案」 資料4のパブコメ時の計画を「パブコメ案」として説明させていただきます。

パブコメ案、修正案の3ページをご覧ください。ご意見は、計画の位置づけの項で、個別計画全体に連携する「都市マスタープラン」「環境基本計画」を、ひとつの枠にいれず、それぞれ独立させたほうがよいのではというものでしたので、こちらは、ご指摘どおり独立させました。

パブコメ案、修正案ともに5ページをご覧ください。こちらは、センテンスごとに小見出しをつけて欲しいとのご意見でしたので、(1)観光の現況(2)第1期観光基本計画の評価をつけました。

パブコメ案、修正案ともに6、7ページをご覧ください。こちらは、7ページの「これからの取り組みイメージ」の図に、美術館や芸能などの関連する業種やNPOなどを追加して欲しい、とのご意見でした。そこで、6ページの下に、それぞれの主体に含まれる人、団体として、例示を加えました。

さらに検討会から、7ページの図の各主体を輪(リング)の上に表現すると、隣どおしの連携しかイメージできないので、ひとつの枠の中に入れるべきである、さらに双方向の矢印は相反するイメージなので、相互につけたほうが良いとの意見がありましたので、修正しました。

パブコメ案、修正案の8ページをご覧ください。下から9行目、「この観光都市と住宅都市の二面性を両立させることと歴史・文化都市としての伝統を継承することが「鎌倉らしさ」であり、最も大切であると考えます。」であったのを、すっきり表現すべきというご指摘をいただきましたので、その行の最後のところを「・・・伝統を継承することが「鎌倉らしさ」であると考えます。」に修正しました。それに合わせて、次の「さらに」を「この」に修正しました。

パブコメ案、修正案の9ページをご覧ください。こちらは、計画の目指すところとして、その目標や将来像について、具体的なイメージを「・・・こうなります。」という表現で説明していたのですが、「～して、～となる」あるいは、目標文章体 例えば「～を目指します」に統一すべきではないかというご意見をいただきました。これらについては、検討会でも同様に、最終的に行政計画として位置づけられる以上、市としても、取り組む意識で表現すべきではという意見が出ています。そこで、修正案のとおり、全体を「～することによって、～となります」に統一して修正しています。

最後に、パブコメ案、修正案の13ページをご覧ください。こちらは、これまでの修正を受けて、点線の枠内の「市民」を「市民・市民団体」に、「◎来訪者の満足から地域全体の満足」を「来訪者の満足と地域全体の満足」に修正しました。

以上が、ご意見に対応して事務局で修正した部分になります。

委員長：

ありがとうございました。2点あって、まず資料2、3で、パブリックコメントをいただいて、対応案を考えていただいたものについてよいかどうか。もう1点は、その事務局対応案に基づいて、資料1と4で計画案の文面等書き換えていただいているので、最初この2点について議論したい。

資料3、4に関して、事務局の対応についてご意見ございますか。これは事務局が回答を考えたものですので、確認して気づいた点等ご意見を。

委員：

対応案は個別に回答するのか。

事務局：

対応案については、まとめてホームページで公表させていただく予定。匿名の方もおり、個々には回答しない。

委員：

目標の能動的な表現について、私もそう思う。市がやるか民の立場でやるのかということはあるが、きちんと表現すべき。ただ、目標1だけ「されます」という表現であとは「します」となっている。「します」の方が能動的で、統一した方がよい。

委員長：

目標2と3に近い「します」という形に語尾の修正をお願いします。

委員：

「されます」だと他人事のような感じがする。

委員：

3点、意見を述べたい。第1点は、観光が鎌倉にとって産業の一つというより、非常に大きく位置づけされるべきものだというのを、もう少し強く表現した方がよいのではないか。計画案の3ページの表現では、この観光基本計画は「鎌倉の分野別計画として位置づけています。他の分野別計画との整合を図ります」とあり、また資料3の事務局の文章で、「本市にとって観光関連産業を経済活性化の基盤として位置づけることは必要と認識していますが」とある。他の部署との関わりもあるので、観光を強く表に出して計画を進めるわけにはいかないという意味合いが感じられるが、観光が重要な産業であることについて踏み込んだ記述がほしい。

資料2、玉縄地域の男性から、「観光産業を鎌倉の経済活性化の基盤として位置づけることが必要」というような、明確な記述を要望している意見もある。6ページにも、「観光産業の活性化しかない、将来はこれに担わせるという決意や覚悟が感じられない」とある。この計画にかける情熱が感じられず、熱意を表面的に出す記述のあり方が大事だと思う。

第2点目は、推進体制の構築について。資料1の6ページ。「推進体制を構築していくことが大変重要となります」ということを述べている。これはいい表現だと思っていたら、そのほかの部分で構築という言葉が出てこない。37ページの行政の役割として「推進します」とあるが、構築と推進ではかなり意味合いが違う。時系列で言えば、18年度に調整、19年度に立ち上げ、20年度以降に運営支援をしていきますというように、今から1年2年かけながら組織を考えるとある。半年後にでも具体的な構築を目指して動いていくという感覚を取り入れた方がよい。推進体制を構築することに対する熱意がないという印象を受けた。

資料3の事務局対応案の言葉の中でも、1ページの2件目「と認識していますが」とあり、分つてはいるがそう簡単にはいかないという印象がある。「認識しています」で切り、最後を「活性化につながるとも考えています」という言葉使いだと収まるのに、どうも及び腰である。5ページ目の1件目、「合理的戦略的にマネジメントする指令部門がなくてはならない」という強い意見がある。私もこれがまさに重要と考える。市の対応としては、単に「本計画全体をマネジメントする役割は市が担っています。」とある。担っているのは当然のことで、どうするかということについて表現が弱い。

3つ目ですが、交通政策の記述がほとんどない。交通政策課の観点からであれば、鎌倉の

交通政策はこれ以上どうしようもないということで終了するのもかもしれないが、観光計画の観点から言えばこれで終わりということにはならない。観光都市・鎌倉という観点からすれば、今後市民も含めて観光対策・住民対策を踏まえた交通政策のあり方をどうするか話し合っていく。時期も 22 年度とかではなく来年度からでも検討会をスタートさせて、ミニバスの活用だとかパーキング場の拡大など、観光の立場からもう一度見直してほしい。以上です。

委員長：

比較的議論しやすい 2 点目、事務局の対応案の文章が弱いということについて、事務局がどう考えているか、回答いただけるのではと思う。大嶋委員の意見に対して、時間をとって対応策を考えればよい。

観光産業を前に出せというということと、マネジメント組織の実態をどうするかきちんと書くということ、交通政策との連携・対応策について。大嶋委員としてはどういった形で対応したらよいとお考えですか。

委員：

この計画はおととい送ってこられたので、それをどう直すかまで細かく検討する時間はありませんでした。私は表現の仕方を直してもらいたいと思っています。推進体制についても、表現の仕方が弱く、基本計画に対する策定委員会としての情熱が感じられないということを行っている。周りの人からも意見を伺っているが、前向きの雰囲気が感じられないということでした。

委員：

同意見です。ここで表現の方法についての提案がある。例えば、テレビで大家族の一家が放映される。お父さんが良く働いていて、長男や二番目、三番目の子供も働き出したというような状況、そういう家族をイメージしていただければと思う。鎌倉市がその一家。そのうち、観光が占める税収の割合がどの位だということを市民は多分ご存じない。観光が稼ぎ頭になりうる存在なのだということを市民に分ってもらうことで、交通渋滞や観光客が落とすゴミ一つ一つに文句だけを言うのではなく、歓迎する姿勢につながってくると思う。店の経営者には「観光客はお客様」という意識が直接的にあると思うが、市民の側からすると、あふれかえる観光客を、「税収面で豊かにしてくれる人」とは捉えにくい。数値的なメッセージで、「観光は市を豊かにする」ということが伝われば、市民は、歓迎意識を持つことにつながると思う。円グラフなど表をつかって、税収にしめる観光の割合などを提示することで、自分たちは観光都市に住んでいるのだ、という意識が高まるのでは。

委員長：

資料としては市の税収に含まれる観光関連の税の収入などということになるか。予算配分まで含めて書くのは観光のプランとしては難しく、都市マスや総合計画で書かれることだと思う。

委員：

この計画しか見ない人もいると思うが、この計画に重複して載ってくるのはまずいのか。

委員長：

それは構わない。マスタープランの中でどこまで税収の配分について書いてあるか。

事務局：

観光に伴う経済効果については出ていない。これは鎌倉市に限らず、全国的に都道府県、市町村で把握できない現状がある。

観光がどれだけ都市の経済をカバーしているかというのがあれば我々も訴えやすいが、行き着いていない。個別の市町村で把握するのが難しい現状をご理解いただきたい。

委員長：

国が観光の統計を整備していく方向にある。現段階では事業者が観光に関してどのくらい税金を納め貢献しているかという細かいデータは取れない。データの取り方を含め、鎌倉の事業者や市民を含めて、データの整備をしていこう、ということは書ける。

委員：

数字の精度の問題はある。鎌倉の観光は、日帰りでちょっとまち歩きで来た方や何かのついでに来た方が、それぞれが観光と意識していなくても神社仏閣に寄ってお金を落としていくということで、対象の取り方が難しい。

ただ 1800 万人という数字が公表されている中で、だいたい飲食などで平均一人 3,000 円くらい使うだろうということでかけてみると、約 500 億円くらいになる。この数字は非常に粗いが、市全体の収入や税収から見るとこのくらいになるということは言える。そのくらいの数字は出しても良いと思う。客単価も、アンケート調査をどれだけ取ったかなどということではなく、一般的な数字で、あくまで目安としておおよそのオーダーを知りたいのだと思う。

委員：

他の都市と比べて、というのが資料として載るとよい。

委員：

単価が粗くても、おおよそ他の数字と比べてどのくらいということを計ることは一般に認知されていない。

委員：

鎌倉の中で観光産業がどれくらい大切な位置を占めているかということについて、イメージが分かるとよい。でないと、なぜわざわざこのような計画を作るのか、どう変わるのか、ということになってしまう。

委員：

冒頭に大嶋委員がおっしゃったが、観光産業をもっと一番上位に据えろということと、観光も産業としてフォローする、ということについては必要だし、訴えが弱い。

事務局から、「住んでよかった、訪れてよかった」まちという表現を逆にしてはどうかという話があった。それは違う。訪れてくれる人がいるから住んでいい町なのだ、というのは違う。直接観光に関わらない市民も、この町に住んでの歴史・環境が良い、それを訪れて評価してくれる人達にも誇りに思える、ということがあり外から見て魅力的なまちになる。この順序が、鎌倉らしい歴史資源、環境資源を大切に作り上げていく中でもてなして行こうという事になる。ただ、もてなしましょうということだけで産業としての具体的な決意がないので、基本理念のところでもてなして産業として育成・定着させていこうと記述する。あるいは 11 ページの基本方針 2、まちの活性化こそまさに産業といえる。ビジネスとして育成・発展する仕組みに取り組みうとところまで記載する。

委員：

もっと熱意が感じられるような言葉遣いの方が読んだ人に受け入れられやすい。

関連で言うと、12 ページの方針4。「整備する」ということだが、新企画を出す、新しい試みを取り入れるという言葉使い一つで印象が変わる。その下の説明でも、これまでと同じレベルでやっていくことしか考えていないのかなとしか感じ取れない。表現として、新企画・整備も図りますという形にすると夢も出てくる。

委員：

データに関しては出していただけないというのが現状。データがないと、観光産業として他の産業から認められる位置に高めることが出来ない。

国では宿泊旅行統計だけを先行して取るということで進んでおり、来年1月から実施することになっているが、課題が沢山ある。旅館からの回収率が悪い。旅館からデータを出していただかないと意味がないデータになってしまう。産業というからには、地道にデータをしっかり取れるようにしていかなければならない。でないと、いつまでたっても色々なイベントの効果測定が出来ず、結果やりっぱなしになってしまう。結果的に活性化をうたってはいるが、パンフレット・マップを作って終わりとなってしまふ。それらを作ることが最終目的ではなく、本来は来てお金を落とすしていただくための一販売ツールである。

観光事業は少ない財源で大きな効果を得るものだと思っている。それを観光以外の方に分かっていただくためには数値で示すことが必要。平成18年度の県の観光予算は2億5000万円である。地域からの要望に添えていくことが出来ない。

観光は色々な産業・業種に関わっている。宿泊業だけ見ても、食材の仕入れ、芸能関係、マッサージの方の雇用もある。業界が多岐にわたっている。観光だけの数字だけではデータは取れないと思っている。したがって、観光関連施設からどのような消費があるかデータを取って目安にしなが、観光産業の役割を見ていく必要がある。県としてはモデル地区をつくって検討していきたいと考えている。

委員：

それは20年も30年も同じ話をしている。限られた予算で精度を高めて続けていく手法の検討が必要であると同時に、この計画の中で、精度についてはアバウトだが、1800万人に一般的な数字をかけてとらえるところなる、書いてもいいのでは。

委員：

私が言いたいのはそういう厳密な定義の話ではなく、国が打ち出した「観光立国」が非常に一般に分かりやすい、というようなことである。

委員：

海水浴は昨年と比べてどうだったかなどという時、何が比較の基本になるか。

委員：

天候は第一だが、天候が悪くても良くなっていかなければならないし、天候が良ければもっと良くならなければならぬという話になる。良い悪いの基準は人数と質について。お店構えが良くなればお客様は呼べない。江の島は子供が多く、鎌倉は大人が多いという話をするが、それは業者がきちんとした体制を取っているからではないか。他の海岸を見ていらした方も、鎌倉の海岸は落ち着いていて良いとおっしゃる。

小泉前首相がビジットジャパンを打ち出した。新聞にフランスは観光客がすごく多く、日本はこの程度ということが載っていた。日本の観光では京都や北海道があるが、鎌倉は非常に重要。どういった鎌倉が求められているかを満たすためにこの計画があるのだと思うが、産業の部分でもこれだけ占めているというところを、市民にもう少し知らしめるべき。

委員：

データを具体的にとっていく方法をアクションプランの中で考えていかなければ。例えば国勢調査や事業所調査などを形を変えて、大雑把でいいからデータを取る方法を模索していかないか。

委員：

商工会議所の次年度の事業計画で、観光調査を実施する。理由として、市でも調査はしていたが、事業者の意向・実態については半ページしかない。事業者としてどういう努力してきたかは自分たちで示すしかない、というのがスタート。例えば横浜のデパートであれば、どの店がいくら売ったという数字が、箱の中ならきちっと把握できる。収益まではなかなか出さないかもしれないが、売り上げをオープンにするぐらい、みんなが胸襟を開いてやっていかないと産業化にもつながっていかない。そういう時代がそろそろやってきている。

とりあえず旧鎌倉を一つの箱とすれば、その中でどういう分布があるかなどどこまでやれるか、試金石になるかもしれないがやってみようとしている。色々話を聞いたがどこからも数字が出てこない。説得力がないというのを我々も歯がゆく感じていた。難しすぎるのかもしれないが、1軒1軒回ってでもやってみようというのがある。

もう一点。これからの鎌倉の財政をどうやって支えるのかというときに、観光が非常に大切になってくる。だから観光をもっとしっかりさせなければならない、というのが今の話の要旨だと思う。世界遺産の件もあり、バッファゾーンをかぶせることにより、権利をある意味束縛することになるが、それをどう担保していくかといったときに、観光という視点があるということ、鎌倉市全体の中における観光のあり方としてうたい、その決意を書き込んでいくことがぜひとも必要。

世界遺産に登録されれば、間違いなくもっと多くの人がある。それをどこでどうやって迎えるのかというプランがない。北鎌倉エリアでも、お寺はあるがそれだけの人が集まる場所がない。食事もない。一律にではなく、エリアごとにこうあるべきだということをし込んで行かないと、お客様からは、世界遺産は見たけどいる場所がなかったということになりかねないと危惧している。

委員長：

いただいた意見をまとめたい。産業の位置づけやデータについて積極的に書くとすれば、5ページに、鎌倉における収入支出の状況と、鎌倉の観光関連の産業がこのくらいであるというのを書くというのが一つ。

産業として重要であることについては、方針2に、産業の面から経済的な活性化を図っていくことをより強く書く、という対応が可能であろう。

委員：

施策として今日初めて出た論議だが、経済波及効果のことだけでなく、この計画がPDCAで進められる中でチェックは何をもってするかということになる。鎌倉に合った観光の統計数値の整備に取り組もうということもぜひ入れていただきたい。

委員長：

15～17ページの目標指標などがチェックの対象になってくるが、統計のないものは統計化することなどを、アクションプラン自体に一つ項目を付け加えてやっていく。

事務局：

精度は高くないが、昨年調査を行っている。また県内各市町村の入込観光客数、消費額もデータはある。そういったデータは出せる。

委員：

既存の精度・手法の中ではあるが、およそこれだけの消費が生まれている産業であるということやうたったほうが良い、ということ。

委員：

まだ産業になっていないということを明記すればよい。産業になっていないからデータがないのだ、と。分からないから分かるようにしようと書けばよい。

委員長：

なぜ産業になっていないのか、観光産業について鎌倉でも考えていかねばならないということを書くと良い。

委員：

入込客数×単価では、波及が分からない。単純な一時的な消費だけではないので分かりづらいついということを書く。

委員：

今年アンケートを取った。2社のうち1社からしか出ていないが、その中で鎌倉の海岸でいくら使うかというのを聞いている。まだ集計中ではあるが、結構な額を使われている。鎌倉にとって重要な海岸であるということや認識してもらえらると思う。アンケートは業者に役立つものだが、鎌倉全体で、海岸でこれだけ人が来てお金や落としてくれている、すばらしい観光があるということやもっとアピールできる元になると思う。

海水浴客数は出ているので、単価をかけることで産業が起きていると言えらるし、雇用・仕入れ・建築もある。

委員長：

補助的資料を入れながら、鎌倉の観光関連産業の重要性を書いていけばよい。

委員：

子供でも分かるように、というのがあった。生物の生態系みたいに、分かりやすく書けないか。観光客が来ることでこういう良いことがある、ということや示せるものがあるや良い。

委員：

絵はある。二次波及まで含めた産業連環が本当は必要であるが、そこまで書こうとすると数千万かかってしまう。一次消費の数字すら誰も見ていない中で、そこまで必要か。

委員長：

いたずらに計算する前の数字を出すのは賛成。資料編になるか本編にするか。

委員：

記述を本編にし、今までの数字を資料編に入れる。

繰り返しになるが、観光入込みに対する統計や数値をもう少しきちんと取りましようという姿勢を示すことは、経済波及効果に限らず、この計画が突出しているのは、数ではなく質を伸ばすことを求めることであり、質を計るものは何か。お金だけでなく、滞在時間が伸びた、リピーター率が伸びた、という数字をきちんと補足出来るものを追及しないといけない。

委員：

そのためには定点観測を行っていくことが有効。

委員長：

産業・データの関連については事務局と打ち合わせたい。

次に交通基盤について。12ページの方針4に記述がある。交通マスタープランとの連携について、あるいはこれまでにない政策についてもPDCAの中で考えていこうということを書いていくのが良いと思う。

委員：

方針4は交通に関しての一部。各事業者の戦略などもあるので、コーディネーターが公平な立場でやらないといけない。

うちもアンケートを取る中で、環境手形などは発売場所が限定されている、知られていない、という一般の意見もある。もともと事業者の共生というところから始まったものであろうが、分かりにくい、買いにくいという意見が多いので、例えば観光案内所で買える、という風にならないといけない。企業者がイニシアティブを取ると、企業寄りになる。

委員長：

現在の鎌倉市の行政の体制として、観光行政が交通行政に口は出せないのか。公共交通のマネジメントに意見は出せないのか。

事務局：

交通施策の会議にも出たり、委員会の方にも参画しており、特にそのようなことはない。

今の話で言えば、方針4に交通マスタープランについて記述を入れることは出来る。我々としては、整備充実を図るという表現の「整備」は新しいものも取り入れていくという捉え方ではあるが、表現が足りない部分があれば見直す。34ページに交通政策課としての事業も記載がある。

もう一点ご指摘いただいた点について。6ページに推進体制を「構築」していくという表現と「立ち上げる」という表現がある。これは以前この委員会で議論になった。「構築」はあくまで作るもの、作って推進していくというのがアクションプランの表現になっている。また書き方の問題で、18年度に検討、19年度に立ち上げ、20年度に推進となっているが、19年度に立ち上げればそこから推進はしていくことになる。

委員：

推進組織の必要性はパブリックコメントでも言われておりポイントになる。19年度の立ち上げが遅いのではという話があったが、これはかなりタイトだと思う。観光協会もよりも

もう少し幅広いレベルでその後の財政的支援や人材や行政とのポジションなどを考えると、来年度横断的、実効的な組織を立ち上げるのは、今からやらないと本当に大変。

委員長：

18年度「調整」に含まれている。これまでの議論では、プロデューサー制などの仕組みの問題、体制の問題はマスタープランの守備範囲外とし、マスタープランを出した後に話す、としていた。ただ、どういった推進体制がありうるかという点については、いくつか事例があってもよい。

委員：

この計画を配布した後、問い合わせがあったらどう答えるのだろうか。

委員：

まさにそこを今やっておかないと、頓挫してしまうと思う。私としては合議制だと今までどおりで終わってしまう。ネームバリューを含めかなり強力な方を据えて、ある程度トップダウンでやらないと、と感じている。

委員：

体制を作ることについて市民の立場から言うのは難しい。核になるのは行政であり、観光協会、商工会議所という機関ではないか。

委員：

行政の中で今まで以上に密接な連絡調整が必要で、その推進・調整役を観光課が担うのか、企画になるのかという行政の中の話はある。ただ民のレベルで言うと、市民のボランティアや観光に意識のある方などを含めて、鎌倉の新しいネットワークを作ろうという趣旨である。観光協会は、これまでの観光産業の一番濃い部分を司ってこられたが、その枠組みをどう広げるかというのが一番現実的だと思う。そのためには観光協会やその会員も、意識を改革しなければならない。プロデューサーを据え、観光業でない方々にもまちづくりと一緒にやっっていこうとネットワークを広げていく。

委員：

観光協会の中で会員増強を担当しているが、会議の中で、既成の会員組織だけでなくサポーターズなどの枠を広げていかないと、時代についていけないという認識がある。ただ観光協会が出来るかというところではないので、中根委員と同感である。

委員長：

外からプロデューサーを入れ、既存の組織を広げていくということによろしいでしょうか。この点をこれからのイメージの中に入れていくのか。

私としては、観光協会の中に置くか行政の中に置くかは別として、別組織を立ち上げた方がよいと思う。観光協会・商工会議所の力をうまく活かさないと、うまくいかない。守備範囲としては、NPOのネットワークや交通関連事業者、生産者団体のネットワークもカバーして自由に動ける人を3人くらい呼んできてやるのが個人的には良いと思う。

委員：

個別会の関係を今ここで詰めても仕方がない。ただどういう組織にするか。いざという時

に集まれるような、情報交流、推進できるような枠組みを民レベルで作る。そこと、観光課を通して他の課とも連携を取る場も作るという、あるべき機能の姿を描いておく必要がある。実際に立ち上げのときには、あの人を据えたらどうかというように人の顔が浮かんでくるし、お金はどうするということになる。

パブコメでも意見をいただいているので、その組織にどういう人がどういう関係で入れればいいかという姿を書く。

委員長：

7ページのこれからの取り組みのイメージに、そういう組織を作って運営を考えていくとするしかない。

委員：

国や地方で観光プロデューサーと言うが、プロデューサーやカリスマ1人で動くと思ったら大間違い。鎌倉なら、各業種のリーダーいるなら、リーダー会議を作ってそれをコーディネートすれば、そういう形でも良い。

委員：

我々も、学生にアイデアをレポートで出してもらうことがある。その中ではNPOが非常に注目されて色々な意見が出てくる。しかしその方たちとコンタクトを取って何かしようとした時に、どうしたら良いか分からない。ネットワークが整理されていると、全員が同じ方向を向いていない場合でも関係する人達で集まって実行するというネットワークが活用出来る。我々としては、人数・収入はすぐ分かるが、顧客の満足度が一番指数にしにくい。大手鉄道事業者では専門の部署を設けて色々な調査をしている。チェックの部分でそういう組織も必要となる、というように、役割分担が見えてくるので、そういう仕組み作りにも役立つ。そういう名簿があればいいかのかなど。

委員：

現地での観光業者が感じられない。ハワイなど一流の観光地では、飛行機で送られてきた客を、現地でコーディネートする観光業者がいる。鎌倉ではそれが抜けている。そういう業者を育てるのも必要ではないか。

委員：

鎌倉は東京からの日帰り圏で宿泊観光地になっていない。ATA、ランドオペレーターという、現地でのオプションツアーを作る役割があるが、鎌倉であれば自分で来られる客が中心であり、むしろ個人の観光客が立ち寄って情報をもらえる、あるいは予約が出来るという機能が集まる仕組みが大切。

委員：

ボランティアのような形の小規模のもので良い。

委員：

そこには異論がある。今まではそれで来たが、これからもそれでよいのか。お金を払ってでもきちんとケアしてくれるところがほしいと思う。

委員：

取るなということではない。そこをきちんと詰めて事業を考えていかなければならない。

委員長：

37ページの取り組みについて、調整ではなく、連絡協議会・連絡網を年度内に作るなど、書ける範囲で書く。作った後の動かし方は、7ページに19年度以降に必ず動かす記載する。それでもかなりの覚悟が必要となる。

委員：

ここで一步踏み出した方がいいのでは。

委員長：

主体別のアクションプランで、観光事業者・生産者・寺社のところは「組織作りに積極的に協力します」あるいは「作っていきます」になる。市民・市民団体は「推進の連絡会議に関わります」という文面になってくる。行政もそのためのコーディネートをしていくとなる。

委員：

アクションプラン一つ一つも、相当ブレイクダウンしないと進まないと感じている。アクションプランを実現すれば本来の目的にたどり着くかということもある。要は、テーマ別・業種別に部会を作って実践部隊にし、それを取りまとめる連絡会議が必要だと思う。

委員：

この案は、戦略はあるが戦術レベルはこれからである。方向性は合意したが、民レベルではどういうことを誰がすればよいか、分野別の実行計画がないと動かないので、それを行政が立ち上げるのか、テーマによっては協会が音頭役かもしれないが、それはその次のステップになる。

委員：

観光協会の中でも、個々に今の体制をよくしていこうといろいろやっている。この計画は道を示すものだと思うので、そこまで書くのか。

委員：

この計画はここまででよい。アクションプランを実行するのに次のステップはどうしたら良いか。以前の話のように、計画以降に任せるというのであればここまで。

委員：

ある時点で観光協会や商工会議所とすり合わせがあると思うが、当然予算の話になる。案だけ出してお金を出さないというようにならないよう、ここで出来るか。やることだけ投げたおいて、お金は自分達でと言われてもどうしようもない。そこまで踏み込むべきか分からないが、ここに書かないとしても、ある程度答えを持って進めないと、絵に描いた餅になってしまう。

委員：

事業と財政措置は別個にある。民間だと良い事業ならば人・物・金をセットで考えるがそうではない。ある年は財源が付かなかつたから1年先送りということになる。それは認識し

ておかないといけない。

委員：

予算の関係で次年度送りになった、ということを明確に示したらよい。やらなかったのであれば、財源をどうしようということを市民も考えるかもしれない。

委員：

一つ一つの事業に予算を担保することは出来ない。ただ、19ページに「関連する主体が連携・協力しながら決めて取り組みます」とある。市が関与しないプロジェクトはない。事業により色々な主体に中心になっていただくが、お金の話に限らずサポートなどがあるということを記述した方がよい。◎の人に投げってしまうということはないことを示すべき。「市は関連する主体と・・・」という表現など。

委員長：

作った後、速やかに移行させるというところを書くかどうか重要となる。個々のものではなく、それを動かす大きな部分だけ書く。半年、1年後の移行についての書き方としては、7ページ下の図を使い、タイムスケジュールを書くというやり方が良いと思う。どこまで書くかが問題である。

委員：

例えば19年度の〇月までに第1回の連絡協議会を持つ、ということを盛り込んで、それ以降は任すというやり方はどうか。

会議をやるとすれば、第1回から意識を共有していないといけない。

委員：

総会という形でもシンポジウムという形でも良いと思う。共有できる場を作り、そこから始めるということを意思表示する。

委員：

既存の機関はなるべく既存の機関の代表ということでいかないといけないし、組織化されていない部分は組織化しないと。

委員：

最初のキャンペーンをしっかりとやらなければならない。仲間外れにされたというところが出てくるとなかなかうまく進まない。

委員：

今世界遺産がそういう形で進んでいる。一つ一つの団体に、どうして世界遺産に登録しなければならないかを丁寧に説明されて、合意された上で入っていただいている。

事務局：

ご意見として伺います。ただ世界遺産とは違って、観光はいろいろな事業者があり、観光協会があり、商工会議所があり、それぞれの役割を持っている。それを全部集めて総会をやるという話にはなかなかならない。我々のイメージとしては、神社仏閣、観光協会、市民に参加していただき、そのレベルで15人～20人の代表の方に集まっていた方が、

動きやすいと思う。

委員長：

答申を出した後少なくとも1ヵ月後くらいに、どういった形で組織を作っていくか、どういう人達に集まってもらうか、年内に会議を開かないと間に合わない。そこまではマスタープランに書かないと無責任になってしまう。

委員：

それぞれのテーマごとに、関わる人達と、もう少し違う分野の人達が集まって分科会形式でやると良い。事務局の機能も、テーマごとに相応しいところにやってもらう方がよい。

そして、具体的な戦術に落とし込む体制を、幅広い、関連する人が集まって検討し実行していく、という表現を入れる。

委員長：

書く場所としてアクションプランの中ではおかしいので、その後に項目を設けて書くことになるか。

委員：

あとがきにこの計画の次のステップへ向けてという形で意思表示をした方が分かりやすい。

事務局：

策定委員会としては、委員長の言葉、委員会の言葉として市に投げかけてもらう。

委員長：

最後アクションプランについて。主体別の取り組みについて23ページ以降にスケジュールに合わせて書かれている。今回始めて提示したのもなので、書き方等についてご意見を。

事務局：

資料4 計画案の18ページをご覧ください。「アクションプランの構成」ですが、これまでは、目標と取り組み項目だけ示していましたが、20、21ページのA3の一覧表を判りやすく説明するために、まず(1)アクションプランの項目として、3つの目標に対して、10項目の取り組み項目を定めたこと、それらについては、22年度までにPDCAサイクルに基づいて、適宜見直しながら取り組むことを説明して、以下、項目を並べています。

19ページをご覧ください。(2)アクションプランの主体とスケジュールとして、次にある一覧表の内容について、それぞれ項目、個別プラン・事業内容、主体別の取り組み、スケジュール、関連する鎌倉市の取り組みについて、説明をしています。

1点訂正をお願いしたいのですが、③主体別の取り組みの、記号の例示で、△=協力・参加程度になっておりますが、「協力・参加など」の誤りです。お手数ですが、訂正をお願いしたいと思います。

次に、22ページをご覧ください。ここから、目標項目別のアクションプランとなりますが、個別表の前に目標ごとに一覧をつけて、具体的な取り組みを紹介しています。

23ページをご覧ください。個別項目ごとの取り組みとして、目標1の「ア) 鎌倉らしさの再認識と鎌倉らしいもてなしをしよう」という項目について、まず、個別プラン・事業内容をここは4つ示しています。

右側の事例・写真・イラスト欄は、最終的にまとめる際に、すでに鎌倉で取り組んでいる

先進事例や写真イメージなどを貼り付けていく予定です。中段の主体別の主な取り組みは、「観光事業者・生産者・寺社」、「観光協会・関係団体」、「市民・市民団体」、「行政」が、それぞれ具体的に何をするかを、代表的な例で示しています。

その右側は、その取り組みの結果、観光客（来訪者）などへの効果として、こういうことが期待できるということを示しています。

下段の「関連する鎌倉市の取り組み」は、この項目に沿った鎌倉市の各課の取り組みを、年度ごとに示したものです。

この項目別のシートが最後の38ページまで続いています。細かい内容までは、時間の関係から説明できませんので、ご了承くださいたいと思います。

以上です。

委員：

A3の部分の市の取り組みと23ページ以降の関連する市の取り組みについては精度・密度が一緒。個々の事業について記述していこうとすると大変だが、記述しきれないならイメージが伝わるような言葉にしておく。中段と下段は混同しやすい。

委員長：

行政計画なので、行政の事業は載ってくる。

委員：

A3の部分だけでいいのではないか。

委員：

28ページのまち並み景観については、道路等だけでなく建物が重要な点だが、建物については何もないのか。

事務局：

「まち並み」はまさに建物がその中心となってくる。意図的に外してはいない。

委員：

20ページの関連団体については、観光協会や商工会議所以外にどういうところが想定されているか。また関連団体の取り組みに、かなり多く◎があてられているが、財政措置があるということも含めていって考えてよいのか。

事務局：

◎だから市が全てに補助金を出すというものではない。

委員：

財政のことを考えれば、来年の8、9、10月にはもう平成20年度に向けて事業の内容を確定し、予算要求していかなければならない。

委員長：

財源調達の仕組みの問題はあるが、限られた中で、優先順位をつけ、予算がなくても実施する方法、あるいはこれはつけてでもやるべきもの、ということを検討していく。中心となる◎の主体と行政が調整していくことも必要。

アクションプランについては、個別で構わないので意見ををお願いします。
今回の意見を基に修正をし、次回は答申に向けてまとめた案を皆さんに承認していただくような形で、市長へ渡します。

委員：

会議の1週間前くらいには資料を送ってほしい。それでないと言えない。

事務局：

次回は11月27日(月)14時～16時になります。16日には検討会があり、資料については日程的に厳しいが努力する。次回の会議は30分程度で確認をしていただき、その後市長へ答申する形となります。その際委員長には一言お願いいたします。

委員長：

それでは時間もかなり過ぎてしまいましたので、今回の会議を閉めたいと思います。お疲れ様でした。

<終了>